

幹線道路整備の遅れによる経済的損失について



問

昭和53年に議会、商工会とも合意の上で国道38号のバイパス化を都市計画決定し30年が過ぎようとしている。

平成12年には「国の財政から事業展開は難しいが町内の意思統一など課題整備が求められているので今後は商店街、会社、地域の方々の理解を求め体制づくりに努めたい」と示していた。賛否両論の中で投資効果のある地域と認識されたがいつ着工されるのか。

町の強い姿勢も見られないと嫌われ、西帯広・芽室へ進出していく。町内業者も設備投資のしづらい状況となり、駅前沿線も寂しい町並みとなった。住民も通勤、通学、通院時の不安不便を経験した若者や高齢者とその家族はこの町から去って行き人口減となり経済活動は減少していった。また平成5・6年には幕札線の道々昇格が語られ整備を

進める考えを示された。この道路はこれからも交通量の増加が予測されるが2カ所の踏切横断や冬期事故多発路線の為、抜本的改修が必要である。

また近々には札内南大通のアンダーパス化で幕札線との交差点が複雑に改修され住民は事故多発を心配し高齢者が中心街に買い物に行きづらくなるので購買力をますます減少させる要因を作っていないか。安心安全な道路づくりに逆行していないか伺う。

町長

国道38号バイパス計画の整備促進にあたり、商工会をはじめ町内関係各位の理解をいただき、関係機関に町の主要懸案事項として十勝活性化促進期成会なども通し、要請活動を行ってきた。

現在、国は横断自動車道や高規格幹線道路など高速道路の整備を重点的に進め

ており、横断自動車道については、平成23年度にトマム夕張間、平成20年代後半に本別釧路間の開通が予定されている。

本別釧路間については、無料区間となることが決定され、一般国道の整備であるバイパス整備は、現在、大変厳しい状況にある。

このような状況の中、北海道では、帯広圏総合交通体系調査を実施中であり、この調査に基づき、帯広圏交通マスタープランを平成19年度中に作成予定である。

将来交通量の減少が見込まれる本バイパス区間について、バイパス4車線、現道2車線の計6車線である現在の計画を合計4車線の計画に見直すことで検討が進められており、町としても、商工会や地元期成会、関係機関と協議を進めたい。

国道38号線に平行し札内と本町地区を結ぶ町道幕別札内線は幕別大樹線のオーバypassや猿別橋の架け替え、札内南大通のアンダーパス事業が近年中に開通、今後はこれまでに以上に安全性が向上すると考える。

平成10年より、札内春日町の大津街道踏切から稲志別橋にかけての2次改良を手掛け、稲志別より猿別市街までの区間は舗装面のわだちによる事故等が発生しており、平成17年度から、オーバレイによる舗装強化並びに滑り止め舗装などを順次進め、安全で快適な道

路環境を確保できるよう努めている。

道道昇格による整備は、北海道へ要望した経緯がある。新規路線の採択は大変厳しい状況にあり、今後も様々な角度から、道道昇格並びに整備について検討し要望したい。



幕別・札内線のカーブ